

総合工学委員会 原子力安全に関する分科会  
原発事故による環境汚染調査に関する検討小委員会

(第25期・第7回)

議 事 要 旨

1. 日 時：令和5年4月 27 日（木）13:00～15:00
2. 場 所：遠隔会議（主催会場：国立研究開発法人国立環境研究所）
3. 参加者（五十音順、敬称・所属略）：青井考、五十嵐康人、伊藤好孝、岩崎俊樹、植松光夫、恩田裕一、木名瀬栄、篠原厚、関村直人、田上恵子、津旨大輔、豊田新、箕輪はるか、森口祐一、保田浩志、山澤弘実（小委員会委員16名）
4. 議事概要
  - ・議事に先立ち定足数を満たしていることを確認した。
  - (1) 前回（第25期第6回）議事要旨と分科会への活動報告の確認（資料1-1、1-2参照；森口委員長）
    - ・前回小委員会では第24期報告の英文版、WG活動報告、アーカイブに関するアンケート実施、第25期活動取りまとめについて議論があったことが確認された。
    - ・アーカイブに関するアンケートは予定どおり実施された。
    - ・25→26期については、SCJ全体としても難しい状況だったが、法案提出が見送られたため、従前の移行が行われる。
    - ・親分科会への報告について紹介された（資料1-2参照）。資料中の海洋に関する書籍の出版が5/26に予定されている。
    - ・その他の件として、青山委員の委員会当日のご逝去、処理水放出に関する対応のことが話題となった。
  - (2) アーカイブに関するアンケートの実施結果（資料2-1～2-3参照；伊藤委員、木名瀬委員）
    - ・データアーカイブズWGは3/27に開催。アンケートは、12/24～2/28に実施した。Action itemsとして、出口を検討。「学術の動向」へ投稿も検討したが難しいだろう。RADARACへの登録作業、ERANまたはWARPへの登録を検討している。
    - ・アンケート結果は、資料に掲載のURLで見ることができる。WGでは取りまとめの仕方について議論し、木名瀬委員、田上委員、加藤WGメンバーの3名でドラフトを作成した。
    - ・アンケート回答は27学協会の方から、総数は590、うち測定や試料に直接関わる回答は96件。モニタリングデータの種類としては、空間線量と核種分析が多く、ガンマ線量、表面汚染度、重量汚染度があり、中性子線量も1件あった。その他では、人体や動植物の測定、住民感情の質的研究データなども含まれる。
    - ・測定実施期間は、全体として事故から1年以内に増加、10年後からは減少している。測定地域は福島県が一番多く、関東以北の東日本が多い。
    - ・土地利用の情報がある回答では、海洋（沿岸；外洋）、河川、公園、湖沼、市街地、水田、大学構内、農地が挙がっている。
    - ・データの活用法としては、研究が一番多く半数を超えていた。データの公開方法は、国際学術専門誌が4割強と最も多く、次に紀要・学会要旨集等でその半分であった。単に保持されているデータの活用を考えていない方は多く、3/4に達するが、長期保存は考えられている。また、データdoiのことをご存知でない方が多

い。

- ・事故初期に収集された試料が残っている。動植物を含むさまざまな種類の試料が残っている。何をどのように保管するかが課題。廃棄せざるを得ないとの回答も多い。
- ・既存のデータベースとして、JAEAのデータベース、EMDB、FNAF、福島大環境放射能研の土壌調査試料アーカイブ、とみおかアーカイブ・ミュージアムなどがある。
- ・試料のアーカイブは、福島国際研究教育機構にも関わる。機構の柱のひとつの「原子力災害に関するデータや知見の発信」に環境動態研究がどのように位置づけられるのか、中核機関での位置づけがしっかりする必要がある。機構の業務との関連を想定する必要がある。
- ・個人保管の資料はあと1-5年で廃棄の危機が迫っているのが読み取れる。何らかの対処策が早急に求められる。

Q. データdoiについて知らない方が多いが、如何か。

A. doiは個人が勝手には付与できない。筑波大での事例紹介-出版と同様にデータとしてweb空間で残すことに意義があり、doiをアーカイブサイトに申請して付与する。デジタルの本もあり、省庁データのようにURL変更があつて消えるものとは違う。

- ・コミュニティへの公開よりも広い範囲に公開と考えたときにためらいもある。公開でのリスクもあるのではないか。
- ・研究者個人が全責任を負ってdoi付与で公開するのはどうか。誤りの訂正の仕組みがまだ整備されていないのでは。doiは一旦付与すると修整は不可。発展途上である。
- ・研究公正・コンプライアンス上の責任を果たす必要はあるが、研究公正では保存期間が定まっている。論文誌でもデータ公開を義務づけるものがある。公共性の高いデータを選択する必要があるか。
- ・アンケートの出口戦略如何。「記録」は比較的簡単に出せるのではないか。親の分科会に諮る必要があるのではないか。→ドラフトは準備に入っている段階。参加くださった個別学会へのお礼はすぐにでも必要。その際にドラフト配布は想定（Web公開は避けてもらうべき）。

Q. 試料の「捨て方」には困らないのか。正しく「捨てる」のは難しくないのか。

A. しっかり。しっかり考える必要がある。とは言え、微妙な問題ではある。

Q. 海外勢の研究動向と連動していけないか。

A. 海外勢が興味をもつ試料がなにか、リストの整備・カタログ化が重要である。情報発信をしっかり行うことが大事。ちなみに、筑波大ではこの分野のProf. を公募している。

(3) 第25期の活動成果のとりまとめとそれ以降への継承について

- ・このアンケート結果から、声を拾いたい。doiの周知、データ収集など、S C Jの他の分科会へ投げることは可能か。
- ・アーカイブを含め、本小委員会で扱っている事項は非常に重要である。本小委員会の親分科会は総合工学委員会の下にあり、総合的な学術としての「安全」を第一として考えてきた。S C Jの第三部の範囲にとどまらない課題とも関連する。
- ・メッセージの届け方の工夫が必要。「報告」と固定せずに、「要望」、「提言」、「見解」、「記録」と選択肢がある。F1NPP事故のみではなく、我が国研究者のChNPP事故、原点となる広島・長崎に関してなど、より長期の取り組み・蓄積がある。
- ・関連して、広島、長崎の「黒い雨」研究の進捗状況につきごく簡単な紹介説明があ

った（五十嵐委員）。

(4) その他

・2023年10月から第26期に移行し、25期中の意思表示は時間切れなので、第26期の早期に取り纏めを進めたい。

Q. 青山先生の一周忌としてイベントを構えて取り纏めの一助とできないか。

A. 第26期の立ち上がりは時間がかかるため、実施する場合は第25期の任期内で構えることも一案。検討する。

・親分科会に本小委員会の継続設置を諮るが如何。了解（異論なし）。

・任期内に再度小委員会を開催したい。了解（異論なし）。

配布資料

資料 1-1 小委員会第 25 期第 6 回議事概要

資料1-2 原子力安全に関する分科会第25期第6回への小委員会活動報告

資料 2-1 アーカイブズ WG（第 25 期第 5 回）議事概要

資料 2-2 アンケート調査結果について（WG 資料）

資料2-3 アンケート結果の解析状況（4月25日版）

資料3 今期の活動成果のとりまとめと次期以降への継承